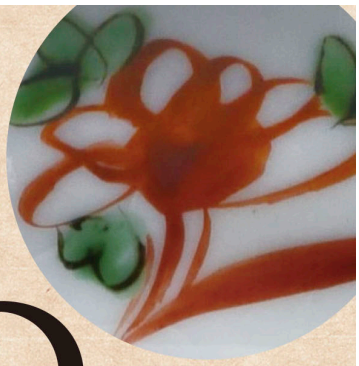


# もう一つの

ひと

Another

キャプション

# 卯辰山物語

Utatsyama Story

-True value of Kanazawa taste

## ―金沢風情の真骨頂

キャプション

**4月27日(金)―6月25日(月)**

10:00-17:00　金曜～月曜開場　入場無料

山鬼文庫　http://www.sankibunko.com/

金沢市桜町 5-27　tel.076-254-6596

卯辰山焼《草花文水指》、横萩一光《葉形向付》

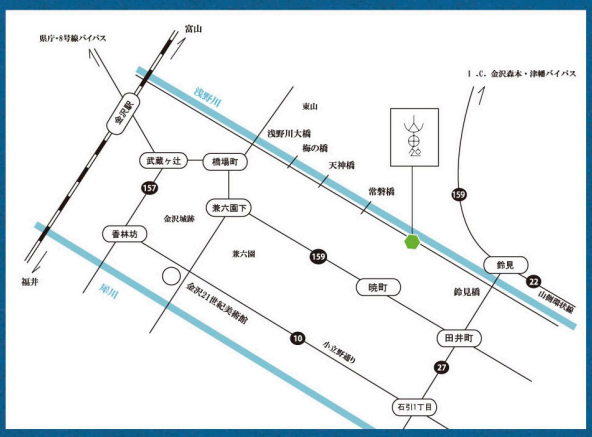
文化 3（1809）年に青木木米が金沢の焼き物再興のため京都から招かれました。卯辰山山麓に窯が築かれ、金沢の陶磁器に新たな境地が切り開かれようとしたのでした。残念ながら藩の財政悪化のため、木米の試みは継続されませんでした。しかしながら、その後原呉山（1827-1897）、鶯谷庄米（1830-1912）、横萩一光（1850-1924）、納賀花山（1887-1959）らによって、次々と卯辰山周辺で意欲的な作陶が繰り広げられたのでした。こうして、卯辰山は金沢地域における焼物づくりのメッカと言ってよいような様相を呈しました。それらは九谷の伝統としてよく知られる赤絵や色絵ばかりでなく、様々な技法を用いて意匠がこらされ、現在とは異なり、時流にとらわれない洒脱な世界が展開されていました。これらの作品は今日ではあまりお目にかかることもなくなり、この流れを紹介する展覧会も行われていませんが、かつて金沢の趣味人たちがこよなく愛した風雅の味わいと魅力を今一度楽しんでいただきたいと存じます。

納賀花山《色絵兎文急須・茶碗》、原呉山《刷毛目茶碗》、鶯谷庄米《萩写盃》、納賀花山《焼締刷毛目小碗》
鶯谷庄米《刷毛目茶碗》、原呉山《呉洲赤絵盃》、鶯谷庄米《鉄絵楽皿》

## アフタヌーンティー・トーク　（参加費 500 円　飲物付き）

**5 月 12 日（土）午後 1 時 30 分より**
「卯辰山の近代」
本康宏史（金沢星稜大学教授）

**5 月 26 日（土）午後 1 時 30 分より**
「卯辰山に繰り広げられた焼き物の魅力」
山崎達文（金沢学院大学教授）




山鬼文庫は
浅野川ほとりの
静かなブックカフェです。
穏やかな川辺の眺めに
憩ってみませんか。